

WANTED!



オオオナモミ



H22.11.27

ひっつきむしの代表選手「オナモミ」や「オオオナモミ」の姿が見えない。「**オナモミ**」は弥生時代あたりにユーラシア大陸から入ってきた史前帰化植物で、「**オオオナモミ**」は1929年に岡山県で初めて確認された帰化植物（北米またはユーラシア大陸原産）である。ともに実には生えたとげの先が**フック状**で、動物の毛や服の繊維にくっつく簡単に落ちない仕組みになっている。これらは動物を利用して分布を広げてきたのだ。現在、オナモミは全国的に少なくなっている**希少種**でめったに見ることはできないが、オオオナモミは本州、四国、九州、沖縄の都市部周辺で**普通に見られる種**とされている。（「ひっつきむしの図鑑」トンボ出版参照）

マラソン・ウォーキング大会から約1週間、オナモミやオオオナモミを探してみたが、オナモミはおろかオオオナモミも見つからない。空き地や道端に群生しているのはコセンダングサやセイタカアワダチソウばかりで、特に**コセンダングサ**（江戸時代に日本に侵入した帰化植物）の猛威は凄まじい。この辺りでは「どろぼうぐさ」（写真下）と呼ばれている植物である。

そんな中、**中2-3の鈴木君**の情報でアグリタウン（佐野市飯田町）の近くで、ようやく数本のオオオナモミを見つけることができた（写真上左）。日本には次から次へと帰化植物が侵入しているが、一時的に大繁殖しても次第に衰退したり、別な帰化種に入れ替わったりといった変動があるといわれている。オオオナモミの衰退とコセンダングサの隆盛もこの一例なのだろうか。これは意外におもしろいテーマなのかもしれない。



大繁殖するコセンダングサ

求む！オナモミ情報。（どこで見かけたか教えてください。情報を提供してくれた人や内容を「すっかんぼ」で紹介します。また、こうした研究をしてみたい人も募集します）